

豊岡で暮らす

豊岡には
豊かな暮らしがある

豊岡にはおしゃれな店や通り、USJのような大きなテーマパークもありますが、豊岡に居るからこそその豊かな暮らしがあります。

豊岡の自慢は、まちまるごとに広がる大自然です。世界が認めた山陰海岸ジオパークでは、森の中の清流を探検し、カヌーで大海原を冒険し、パラグライダーで大空を飛ぶなど、陸海空を五感で楽しむことができます。

豊岡は祭り天国です。春にはチューリップが咲き誇り、夏には地域の方と一緒に踊り、秋には収穫への感謝で太鼓の音と共に地域を神輿やだんじりが練り歩き、冬には海の幸に感謝する祭りなどが行われています。

おいしい食材も豊富です。安全・安心なコウノトリ育む農法で生産された米や新鮮な野菜などの農作物。国内屈指の鮮度と品質を誇る津居山かに(ズワイガニ)などの海産物。最高級和牛とされる「神戸牛」や「松坂牛」の素となる但馬牛などの畜産物。食材を最高の状態で、身近に楽しむことができます。

世界最先端の芸術にも触れ合うことができます。おんぷの祭典では、世界で活躍する音楽家の演奏が聴け、城崎国際アートセンターでは年間を通して、国内外のアーティストによる舞台芸術を鑑賞できます。

人と人、人と自然、人と文化などの「つながり」を実感できるまちが、豊岡です。

小さい生きものから地球活動遺産まで
海に潜ることで新たな魅力を発見



海に潜ると、今まで見たことがないような生きものや景色をたくさん発見できます。

スキューバダイビングというと、南の温かい海でカラフルな魚を見るイメージが強いですが、竹野では冷たい海を好むシブイ色の魚や、とても豊かな海藻を見られることが魅力だと思います。

最近ではダンゴウオが大人気です。カラフルなかわい魚で、春に見ることが出来ます。主に日本海側に生息しますが、竹野では見つかってから、まだ10年ぐらいです。竹野では西日本では珍しい産卵も確認されています。

猫崎半島の柱状節理も、海中で見ると、陸で見るとはまた違った面白さがあります。

世界中の海に潜ってきましたが、竹野の海の素晴らしさは自信を持ってお勧めできます。

スキューバダイビング

たなかようすけ
田中陽介さん(36)



大阪府生まれ。専門学校を卒業後、貿易会社に就職するが、会社の倒産により3年で退職。趣味のスキューバダイビングを仕事にしようと考えたところ、香美町での求人に出会い就職。竹野への出店に伴い、竹野に移住し、33歳で独立。現在は、スキューバダイビングのインストラクターとして竹野の海の魅力を伝える



地域の絆を強める 喧嘩だんじり



小学生のころ、だんじりの上で太鼓をたたく父の姿が格好良くて、憧れました。出石のだんじりは担ぐだけでなく、ぶつけ合うので、テンションが上がります。1年間でこの日だけは特別な日。祭りが終わると、また来年もという気持ちになります。だんじりを担ぐことで、地域で暮らしている方が分かり、自身も知ってもらえます。また、年配の方や先輩にかわいがってもらえ、地域と私のつながりや絆を強めてくれます。だんじりは、私にとって特別な存在です。後輩に声掛けしながら、この素晴らしい伝統文化と一緒に引き継いでいきたいです。

だんじりの担ぎ手では、私はまだまだ下っ端ですが、いつかはだんじりに上がり、兄のたたく太鼓で指揮者の役割を担いたいです。

出石町川原生まれ。地元を卒業後、大阪の大学に進学。卒業後は、出石秋祭りだんじりを見る側ではなく作る側になりたいとの思いもあり、Uターンを決意。22歳で出石町に戻り、地元の団体職員となる。川原区地車保存会に所属し、地域の伝統文化の継承を担う

出石秋祭りだんじり

あまのじゅんき
天野準己さん(30)



モンゴルと 豊岡の架け橋に

豊岡市国際交流協会では、日本語教室で、日本人が外国人らに日本語を教えています。日本語の上達した学習者の中には、生まれた国の言葉や料理などを日本人に教えている人もいて、豊岡では外国人と日本人が共に活躍できる環境ができてつあると感じます。また、春節祭やハロウィン、クリスマスなど、誰でも気軽に参加できるイベントで、外国人とのコミュニケーションや異文化交流を楽しむこともできます。

私の暮らす但東地域では、モンゴル語で「サインバイノー(こんにはは)」と話し掛けてくれる人がいます。日本・モンゴル民族博物館がある但東。多くの市民が、モンゴルとの関係を大切にしていて、うれしく思います。

私も、モンゴルと豊岡との交流の架け橋になれたらと思います。

国際交流

ジャルガルサイハン・ ラマーさん(26)

モンゴル国出身。モンゴル国立大学日本学科を卒業する。在学3年次に、東京にある外国語大学に1年間留学し、そこで出会った日本人と結婚。平成28年から夫の出身地である但東町に移住し、豊岡市国際交流協会に従事する。現在は、大阪大学大学院に通いながら、但東町で暮らす

